

熊楠ワークス

KUMAGUSU WORKS

木片に秘められた歴史

高野山の蛇柳

じゃ やなぎ

処刑場に恐ろしげな姿

和歌山県西牟婁郡白浜町の南方熊楠記念館に「高野山蛇柳（じゃやなぎ）」と記された木片が展示されています。何の説明書きもない一片の木片に、さまざまな物語が秘められていました。

木片には、「高野山蛇柳 風ニテ折タル幹 大正九年 八月二十四日」と熊楠の自筆で記されています。木片には穴が空けてあり、ひもが通されていますが、切り口は八十年近く経った今でもみずみずしく、日常文鎮代わりに使ったり、キーホルダーのようにつるしてい



南方記念館所蔵の「蛇柳」の木片

た形跡はありません。熊楠は大正九年八月と、翌年の十年十一月の二度にわたって、植物調査のため高野山に登りました。日記によると熊楠は、一回目の調査である大正九年八月二十四日、同行した坂口総一郎（旧制海草中学教諭）に「蛇柳」の写真を撮らせて

発行所
南方熊楠邸保存顕彰会
和歌山県田辺市湊1619-8
田辺市民総合センター3階
田辺市教育委員会文化振興課内
TEL.0739(22)5300(代表)

CONTENTS

- 1-2面 高野山の蛇柳
- 3面 普段着の南方熊楠①
- 4面 熊楠ゆかりの地②③
中瀬喜陽氏

- 5面 万呂の天王池と須佐の森の生き物たち②
後藤伸氏
- 6面 熊楠スケルトン

います。しかし、撮影条件が悪かったのか、「坂口氏蛇柳写真せんとすれど成らず」と、不鮮明な写真しか残されていません。おぼろげな写真には、大きく枝を広げた恐ろしげな柳の木が写っています。これが高野山の蛇柳です。

熊楠は坂口が撮影した写真を植物学の第一人者である牧野富太郎氏に送っています。しかし、熊楠が蛇柳に関心を寄せたのは、植物学的な面からではなく、それが高野山の処刑場に植えられていたからです。

石子詰の刑

霊場高野山では血を見ることを嫌い、「石子詰」（いしこづめ）と呼ばれる方法で罪人を処刑しました。なわでしばった処刑者を深い穴の中に立たせたうえで、

一枚のむしろを頭にかぶせ、石や土を投げ入れて生き埋めにしました。処刑は必ず深夜に行われ、そのさい、蛇柳の枝に燈明（とうみょう）がかかげられたといわれています。
「石子詰の刑」は、高野山の暗部の歴史であり、一般に語られることはありません。日本を代表する民俗学者、柳田国男も実際にそういった処刑が行われたかどうかについて疑問を持っていたようです。しかし、熊楠は明治十九年、二十歳の時に高野山の登り口である橋本村（現和歌山県橋本市）の知人を訪ねる途中、直訴の報復として石子詰の刑に処せられた義民の子孫を訪ねています。
寺石正路宛書簡（大正六年二月十五日）でその時の様子が次のように述べられています（一部略）。